

# はくかんさん



第68号 平成21年正月  
伊豆市法住寺 瓜島信行 発行

## 謹賀新年

本年も宜しくお願い申し上げます。

## 平気で生きる

養う家族がいてもリストラされたたり、一方では老々介護で疲れ切っている人たちが増えたり、希望の持てない閉塞感が覆っています。社会の連帯や家族の絆が薄れ、潤

いや生きがいを見失いがちです。こうした流れを何とかしなければと多くの人たちは思うのですが、個々人は非力です。しかし、私たち一人ひとりが善い社会・地域を創ろうという意志を持ち続けられれば、流れは必ず変えられると信じます。併せてどの様な世の中になろうとも『平気で生きる覚悟』が必要で、正岡子規の晩年を思うのです。

\*

正岡子規は、俳句を始め近代文学に多大な功績を残した文学者として知られていますが、好奇心、探究心あふれ、明治の時代には珍しかった野球なども楽しみ、野球用語の打者、走者、直球等を訳し出したと伝えられています。学生時代に結核を患い、晩年は脊髄カリエスで背中からは膿が出る程に悪化、寝返りも出来なくなります。畳一枚の病の床から書き続けた日記に「病状六尺、これが我が世界である。しかもこの六尺の病床が余には広過ぎるのである。僅かに手を延ばして畳に触れる事はあるが、蒲団の外へまで足を延ばして体をくつろぐ事も出来ない。」と書き始めます。少しの振動にも激痛がはしり、骨髄は化膿し、今の医療からは想像出来ない程の凄まじい有様でした。それでも句会を開き、目にする感動をありのままに句に込め、同人門人を育

成し続けます。日記は死の二日前まで書き続け日本新聞に掲載され続けたのでした。その中の一文は心に残るものです。

\*

『悟りといふ事は如何なる場合にも平気で死ぬる事かと思つて居たのは間違ひで、悟りといふことは如何なる場合にも平気で生きて居る事であつた(病状六尺)』

\*

子規が晩年を過ごした東京根岸の子規庵を訪ねたのは、十年位前のことでした。季節は盛夏に向かう頃で、庭先には糸瓜(へちま)が実をつけ始めていました。この糸瓜を見ながら写生し句にして、平気でいることを願つたのでした。

悟りといふことを悟つたとしても、想像を絶する痛みの中で、平気で居る事など出来ようがありません。悟りなどとても出来ない、この苦しみを何とかしてくれ、子規の悲痛な叫びが聞こえてきます。もがき、あがき、更に激痛は襲う煩悶。生きるという事が地獄の日々に表現し、生きることをありのままに表現し、生きることの意志をもち続け、坂の上の雲を見つづけた子規の情熱、凄さを思うのです。

謹賀新年



### 法住寺護持会

〔総代、護持会長〕山下 一

〔総代、副会長〕伊東修 〔総代〕佐藤雄一

〔世話人〕山下要、飯田忠、飯田安久、

室野則義、小塚昭男、森野博

小塚順一、杉山勲、山田隆二

### 中伊豆立正大題目講(当山)

〔副会長〕佐藤乃婦枝

〔顧問〕井本甲男、小塚勝

〔世話人〕

伊東繁春、井本正雄、井本まつ、

伊東はつ江、三田五月、山下しづか、

伊東すゑ子、伊東ちゑ子、三田幸子

山崎まち、伊東通子、鈴木紀一、

滑川正勝、滑川美奈江、森野一夫、

山下清、小塚正司、林 秀、小塚孝夫、

小塚貞夫、小塚康清、山本宏衛、

山下ふく、山下千代子、小塚愛子、

土屋賢吾、飯田信子、杉山はまゑ、

山本義富

## お寺の庭に花いっぱい

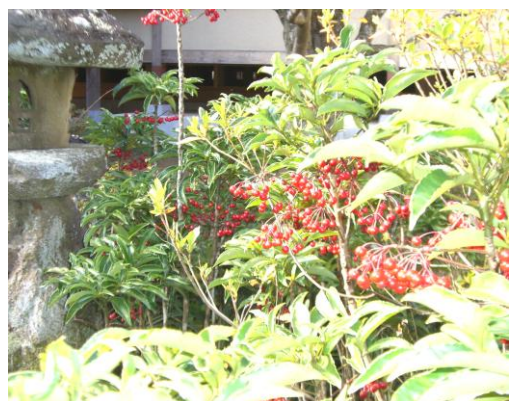
昌子寺庭の山務日誌より

# トピック

嬉しいことに昨年は、スパー等あちらこちらで檀家さんと出合った折に、「こないだの間の「はくがんさん」、読ませてもらって良かったです」、「心が休まりました」、「ありがとうございます」等々、何人もの方から声を掛けて頂きました。そんな時、私も感謝の気持ちで胸が一杯になりました。

\*

先日、テレビでオリンピック・ソフトボール優勝の上野選手のコーチが出ていました。あの緊張と期待を背負っての試合ですから、上野選手のプレッシャーは大変なものだと思っ



ていた。そこでは、コーチが試合前に上野選手に何をさせたか話をしました。私は一瞬、すご

く集中力を高めるために、何かやるんだろうな、たとえば座禅とかやるのかなと思っただけです。ところがです。コーチが上野選手にさせたことは『お世話になった人に挨拶に回る』ということだったのです。私はびっくりして、>なぜ、一体なぜかと思いつつ聞き続けました。その後のコーチの言葉です。

『周りの人に感謝すると自分を信じられる。それどころか潜在能力をも引き出すことが出来る』と。

ほんの一瞬の言葉でしたが、私は圧倒されました。直ぐに書き取って、何回も反復して読んでみて、この言葉の持つ深さに触れることが出来ました。

\*

以前、この「はくがんさん」に、>自分の周りの出来事や、人に感謝する人には、更に感謝したくなる様な事が起ってくる。しかし、いつも不平不満を言っている人には、更に不満を言いたくなる様な出来事が起きてくる<と書かせて頂いたことを思い出しました。

今年も感謝のできる自分でありたいと思っています。本年も宜しくお願い申し上げます。

# トピックス

## 境内整備作業、清掃

十二月の境内整備作業は、清水①の皆さんでした。今回は裏入り口の榎木と檜の大木の枝落として、加藤電気さんが作業車を出して下さり大助かり。もう一つは九月に西の皆さんが作業してくれた道路崖上の雑木伐採の続きでした。どちらも大変な作業でしたが、一生懸命やって下さいました。また十二日講、蓮華の会の皆さんも境内清掃、普段手の届かない所まできれいにして下さいました。おかげさまで、境内は清浄の中に、新年を迎えることができます。



ありがとうございます  
春の作業  
は元村②の  
皆さんがご  
奉仕して下  
る予定です。

## 護法大会

日蓮宗東部宗務所主催の護法大会が、一月三十日午後から、修善寺総合会館で開催されました。二年に一度の大会で、今回も当山でバス一台、三十八名もの大勢の皆さんの参加を頂きました。

今回は伊豆国寺庭婦人のコーラスと立正大学混声合唱団ブンダリーカとのコラボ（合奏）があり、美しく心に響く仏讃歌を披露してくれました。寺庭婦人のコーラスは当山の昌子婦人の指揮のもと、何回も練習を重ね、またブンダリーカの指揮者・磯貝先生とも連絡を取り合っていました。久しぶりにもっと聴きたいという合唱でした。この外に和讃、浅香光代さんの講演、そして最後に法要で報恩・諸願成就のお詣りご祈念を致しました。

## 星まつり 祈祷会

### 悪運を払い善運を祈願

一月二十五日(日)午前十時

節分、立春は年(旧暦)・季節の変わり目ということで、この時期に星まつりを行います。人にはそれぞれ星宿を持っていて、運気となって表れますが、仏さま、諸天善神のご加護を頂くことにより、悪い運気を払い、更に善い運気を頂くことができます。これを『善星皆来 悪星退散』といい、皆さまの星が一層輝きを増しますようにとご祈願を行います。具体的には厄払い、交通安全、家内安全、身体健全、商売繁盛等の形で具体化しますようにとご祈願します。

昨年のこの寒い時期、洋明上人が荒行修行成満でご祈願頂いたお札をお持ちください。お焚き上げ致します。詳しくは別紙をご覧いただき、お申し込み下さいませよう、ご案内申し上げます。



## 洋明さんのおはなし

今日は年末の大掃除三日目、書院の障子を張替えて新年を迎えたいと奮闘しています。私がまだ小さかった頃、今ではよくそんなことが出来たなと思うのですが、なんと書院で野球、サッカーをし、何時も障子



や襖に穴をあけていました。

それを次の日には先代の祖父が何も言わずに直してくれていました。今では子供が

けた事に感謝し手を合わせます。そんな中で最近とても嬉しい事がありました。

ある若者が、ちよつとしたご縁でご祈禱を受けにお寺へ来ました。彼は、それまで信仰とは無縁で、「今まで生きてきた人生のほとんどがマイナスのことばかり。思うように恋愛、仕事、いい事がなかった。」と言います。更に話を聞くと「色々な苦難に遭うと、ついつい逃げ道を探し出してしまふ。楽なほう楽なほうに逃げてしまふ。」と言っています。

\*

私は、彼の考え方に『笑う門には福来る』

『泣きつ面に蜂』と言うことわざを思い出した。福が来るから笑うのではなく、笑うから福が来るのです。蜂に刺されて泣くのではなく、泣いているから蜂にも刺されるのです。彼はいつも負のことばかり考えているので負の事が寄って来るのだと思います。常にプラス思考とはいいませんが、やはりマイナス思考だけではせつかくのいいことまでマイナスになってしまうのではな

いかと思います。

彼の話を二時間程聞いた後、御祈禱は信じる力が大切なことを話し、御祈禱致しました。ご祈禱中彼は涙

を流し、終わった後「何故か分からないが、無意識に涙がこぼれてきた。不思議だ。」と話しました。

数日後その彼から電話がありました。「今日、いままでの人生で一番大変で辛い壁にぶつかった。でも今回は、逃げるのではなく仏さまからもらった自分への試練だと思ふ。この事を乗り越えられるよう前に進みがんばるよ。」と言っています。私は、彼が仏さまのご縁を頂き、ご守護を頂き始めていると確信しました。そして彼の気持ちの変化に生きる力を感じ、大変嬉しく思いました。

\*

毎日の生活では、なかなか気がつかないことが多いと思いますが、皆さんは仏さまに日々守られています。新年を迎え、昨年「特に変わったこともなく、平穩だった」という方がいらつしやいますが、これこそがご守護頂いていることだと思えます。

今年一月二十五日(日)に星祭りを行います。新しい年の変わり目にご祈禱を受けて頂き、今年も「何もなかった」言えるよう、『大難は小難に、小難は無難に』とご祈願申し上げます。詳しくは別紙案内をご覧ください。

## 御志納金「十一月、十二月」

三十万円 元村 飯田 忠 殿 尊父葬儀

破いた障子を私が直し祖父の大変さが身にしみます。(ごめんね！おじいちゃん、大変だったね。)

\*

お寺には色々な祈願、相談、悩み、霊障を持つ方が御祈禱に来ます。特に若い二十〜三十代の方が多くなっています。子宝成就、安産成就、良縁成就などの所願成就の吉報は大変嬉しく、まさに仏さま、法華経の諸天善神さま、鬼子母神さまの御力を頂